

■平資盛 武將。摂政の車に出会うも下馬せずに辱め受け、父が重盛が報復。建礼門院右京大夫との恋も有名。

たいらのすけもり

後白河院政始1158＝ 下総守藤原親盛の女(二条院内侍)を母に、小松内大臣_平重盛の次男に生まれる。

平治の乱・・・1159＝ 1歳：

源頼政内昇殿1166＝ 8歳：従五位下，続いて越前守となる。

清盛太政大臣1167＝ 9歳：

後白河出家・1169＝11歳：従五位上。

・・・・・・1170＝12歳：_摂政松殿基房の一行が女車に乗った平資盛に遭遇した際，基房の従者が資盛の車の無礼を咎めて恥辱を与えたため，資盛の父重盛の武者が基房の従者を襲撃して報復を行った。

法然浄土宗始1175＝17歳：正五位下。

・・・・・・1176＝18歳：

・・・・・・1178＝20歳：右近衛権少將。彼は平家の嫡流である重盛の子息であったが，次男であったためか当初からさほど急速に官位が昇ったわけではない。彼がまだ20歳前後であったころ，_叔母建礼門院徳子のもとに仕えていた女房建礼門院右京大夫との間に恋が芽生えたことは有名。資盛への思慕の念を詠った彼女の和歌は「建礼門院右京大夫集」に収められている。資盛が父重盛とともに熊野参詣に赴いたとき，帰洛後もしばらく訪れがなかったことから，右京大夫は資盛のもとへ'忘るとはきくともいかに三熊のゝ浦の浜ゆふ恨かさねん'という歌を贈ったという。

治承のクーデタ 1179＝21歳：従四位下。*清盛によるクーデタが成功してから，出世はめざましく，

源氏一斉蜂起1180＝22歳：従四位上。*以仁王・源三位頼政の挙兵の際，資盛はすでに大將軍として兄維盛とともに鎮圧の一翼を担っている。同年末には近江・美濃源氏追討のため，伊賀道の追討大將軍として東下し，近江道から下った叔父知盛とともに敵城を攻め，瞬く間にこれを打ち破ったという。

平清盛没・・・1181＝23歳：正四位下，右近衛権中将となる。

後鳥羽天皇・1183＝25歳：*蔵人頭を経て，ついに非参議従三位にまで昇ったが，その原因の一つには彼の大將軍としての武的活躍があったかもしれない。以後は叔父重衡を三位中将というのに対し，資盛は新三位中将と呼ばれるようになるが，直ぐに平氏一門とともに都落ちをしなければならぬ運命にあった。木曾義仲が京へ迫ってくると，資盛は宇治から近江へと出撃したが，そのころ大和まで進撃してきた源行家に背後をつかれる危険性が生じたため，近江まで行かずに行家の入洛に備えることとなった。しかし3日後に平氏が西走すると，資盛もこれを追って叔父宗盛の一行に合流したのである。その後，兄維盛は一門から離脱して紀伊に赴くが，資盛の方は最後まで一門と行動をともにする。

・・・・・・1184＝26歳：_一ノ谷合戦では三草山に陣して源軍に備えたが，源義経の奇襲に敗れ，屋島へ逃れた。同年，山陽道を九州に向かう源範頼軍を破ろうと備前児島に出撃するが，惨敗してしまう。

平氏滅亡・・・1185＝27歳：長門*壇ノ浦の最後の決戦に敗れて一門の人々とともに滅び，入水して果てたとも，あるいは敵にとりおさえられて自害したともいわれる。